

第2回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2011年10月13日（木）午後14時15分～16時00分

場 所：ミューザ川崎 第3研修室

出席者：〔委員〕小倉、庄司、岩森、瀧田、末吉

〔川崎市〕地球環境推進室

〔事務局〕杉浦環境プロジェクト株式会社

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 議事

(1) ビジネス・コンパクト新規申請の審査結果について

事務局から今回の審査対象は、「(有)アトリエ アイズ」の1企業であることと、委員4名から事前集約した審査票についての報告があった。評点の合計は、37点と平均点(36点)以上となりビジネス・コンパクトのパートナー企業として登録することが承認された。

その後、末吉委員からの当日審査点が加算され48点(平均点は45点)となった。

(2) 第3回セミナー開催について

事務局から資料に基づき、11月18日に開催するセミナーの趣旨と概要について報告され、承認された。当日については岩森委員が進行役を務めることになり、委員長は調整して参加するが、遅れた場合は副委員長の庄司委員が挨拶を代行することになった。

案内ちらしに駅からのアクセスがわかる地図を入れて欲しいとの意見があった。

(3) ビジネス・コンパクト(BC)の参加勧誘について

事務局から今後のBC参加登録企業拡大に向けての勧誘方針について、グローバル・コンパクトに参加し市内に事業所を持つ企業一覧と中小企業一覧を整えて、ピンポイントで声掛けを進めていく提案がされ、全委員の賛同を得た。

「市の積極的な勧誘を望みたい。かわさき環境ショーウィンドウなど環境を切り口にした表彰制度があるので、その対象企業へのアプローチを積極的をお願いしたい。」などの意見が出された。

岩森委員から中小企業に関する情報提供に協力する申し出が、瀧田委員から臨海部企業への声掛けをしていくとの申し出があった。

事務局から継続申請が未提出の企業や団体がいくつかあることが口頭報告された。申請の出していない企業や団体について、一年以上経過したところに関してはメーリングリスト登録を削除することが承諾された。これに関連し、「申請が出されていないことに関して事

事務局は危機感を持って滞る理由を聞き取り、今後の改善点とすべき。企業に関しては市からのアプローチをお願いしたい」との意見が出された。

委員会の場に、企業と団体のセミナーなどの出欠がわかるリストを提出してほしいという意見が出され、事務局はこれを了解した。

未申請の団体について、市民活動団体の一つについては庄司委員から、企業に関しては瀧田委員から呼びかけるとの申し出があった。

末吉委員からグローバル・コンパクト（GC）の動きについて以下の報告があった。

国連は来年5月、「リオ+20」をブラジルで開催することになった。1992年に開催した地球サミットから20年後の会議という意味で今までの総括を行う機会となり、今後何をするか政府とステークホルダー合わせて議論をしていくことになる。温暖化は止まらず地球の異常気象を引き起こし、貧困は年々悪化している。何のためにやっているのか本気で考え直す時期に来ている。この国連の動きと合わせてGCが世界的に叫ばれ脚光を浴びることになるだろう。GC-JNが一般財団法人化されることも併せてGCをとりまく状況が変わるに違いない。BCの呼びかけもGCの動きを見据えて動いたほうがいい。

瀧田委員から北九州市を例に以下の意見が出された。

北九州市は同じような取り組みをしているが、「環境モデル都市」に選ばれるなど見せ方が上手い。強みは企業と一緒にやっていることだ。川崎市も臨海部のメガソーラープラントをはじめとして先進的な取り組みをしているのだから、一連の取り組みを総合的に訴え、企業にとって工場を建てたい都市、市民にとっては住みたい都市として認知されるように、企業・市民の、よりよい生活環境を未来志向で考えられるような情報発信をして欲しい。

(4) かわさきコンパクト・フォーラム開催について

今年度のかわさきコンパクト・フォーラムについて、事務局から資料に従って開催の考え方と企画方針が提案された。

今年度は、自治推進フォーラムとは別に単独開催にすることが提案され承認された。

企画内容他に関しては、以下の意見が出された。尚、意見交換の中で、基調講演の講師について末吉委員に依頼の提案がされ、本人の承諾を得た。

(講演内容について)

・今年続く異常気象などは対岸の出来事ではなく身近な問題になってきていることを切り口すると関心が高まると思う。また節電対策など市民の関心も高く、他人事ではなく自分のこととして捉えられる状況であり、身の丈にあった展望を提示できるとわかりやすいだろう。

・CCかわさきでスマートライフスタイルを発信している。今までの暮らしを享受しながらも節電できる、といった市民の関心を得やすいことを見せていきたい。

- ・川崎市の大企業は数々の先進的な取り組みを始めている。行政もまた同様である。企業、行政の様々な取り組みを情報提供して、それを見た市民側も活動を提示し、各持ち場でコンパクトを具現化しているという表明をしていくのもいい。
- ・末吉委員にフォーラムの基調講演をしていただき、ワールドクラスの事業をしている企業の事例報告をお願いしたい。
- ・企業の取り組みとして味の素や昭和電工などはどうだろうか。
- ・子どもを対象にすることを視野に入れて、わかりやすく身近な例をお願いしたい。川崎市の小中学校の環境教育の先生にコメンテーターになってもらおうと、子どもたちが参加しやすくなる。
- ・2月のUNEPの集まりに合わせ、海外のかた（中国など）を呼んで川崎市についての評価を述べてもらうのも市民の関心を呼ぶのではと思われる。

（開催日について）

- ・2月12日、18日、19日を候補日に、市のほうでアクセスの便利な100名くらい集客できる施設を確保する。

（広報について）

- ・子どもにもわかりやすいようなちらしにする。
- ・会場のある区の学校に声をかけ、ちらしをまく。

(5) 上期事業の取組について

事務局から、今年度事業の上期報告書の概要が述べられた。特に意見はなかった。

4. 閉会